

L 30994

當世粹の一つ書ほ乃

扉

不得(ザレハエテ)其ツ門(ヲ)而入(イラ)不見(ト)宗廟之美

百官之富(ヲ)実哉(マコトナルカナ)不(ザレバ)得(エテ)其樓(ヲ)而遊(バ)

不知女郎(マコト)之実(マコト)藝子(ハリヲ)張(ワガ)弟支(ナル)基者

弱(ワコウ)而(シテ)好(ミ)生(ニ)樓頗(スコブル)極(キワム)色道奥儀(ヲ)

カルガ（エベ）ニ
孔世人稀レ
（イツオ〳〵テ）ワガ（ヨギル）ヲ
貧ナル予ノ
ニ（ヒ）ノ（ハ）ズ
招カレ
（タヽイテ）ノ（ハ）ズ
敲カレ
ト（ヒメ）ナラベ
世ノ奴ニ
（マクラ）（ヒル）
就キ晝寝
（ヨヲ）（ヨミ）
ス人ニ
（ヨラメ）（サヘハ）
非ズ
（カラスベ）（サヽス）
ンバ
ナシ（ハナル）
雖モ
（ハヽ）ニ
ニ
（カ）
非ズ
（ナシ）
何ソ
（ハヾカレン）
聖ヲ
（ヒザ）ハ
招カレ
（ヨラメ）（サヘハ）
非ズ
（カラスベ）（サヽス）
ンバ
ナリ
（ハナル）
雖モ
（ハヽ）ニ
ニ
（カ）
非ズ
（ナシ）
何ソ
（ハヾカレン）
聖ヲ
（ヨヲ）
（ヨヲ）
（ヒル）
（ヨミ）
（ヨヲ）
（ヒル）
（ヨミ）
（ヨヲ）
（ヒル）
（ヨミ

年ヲ旬（コッ）セント（セント）欲（ホッ）シ舊（シイ）ヲ舊（シイ）ヲ棄（スイ）テント（テント）欲（ホッ）シ新（シン）ヲ新（シン）ヲ採（トラ）ント（ント）欲（ホッ）シ嗜（アジハ）ヒ（ヒ）ヲ嗜（アジハ）ヒ（ヒ）ヲ捨（スイ）テント（テント）欲（ホッ）シ情（ジョウ）ヲ情（ジョウ）ヲ制（セイ）セント（セント）欲（ホッ）シ

極（キワ）メ通（トオ）ス者（モノ）ハ其（ソノ）ノ生（セイ）ヲ長（チョウ）ニ尻（シリ）ヲ拄（ヨセ）ニ云（イウ）ヘリ

年（トシ）ヲ旬（コッ）セント欲（ホッ）シ舊（シイ）ヲ棄（スイ）テント欲（ホッ）シ新（シン）ヲ採（トラ）ント欲（ホッ）シ嗜（アジハ）ヒ（ヒ）ヲ捨（スイ）テント欲（ホッ）シ情（ジョウ）ヲ制（セイ）セント欲（ホッ）シ

極（キワ）メ通（トオ）ス者（モノ）ハ其（ソノ）ノ生（セイ）ヲ長（チョウ）ニ尻（シリ）ヲ拄（ヨセ）ニ云（イウ）ヘリ

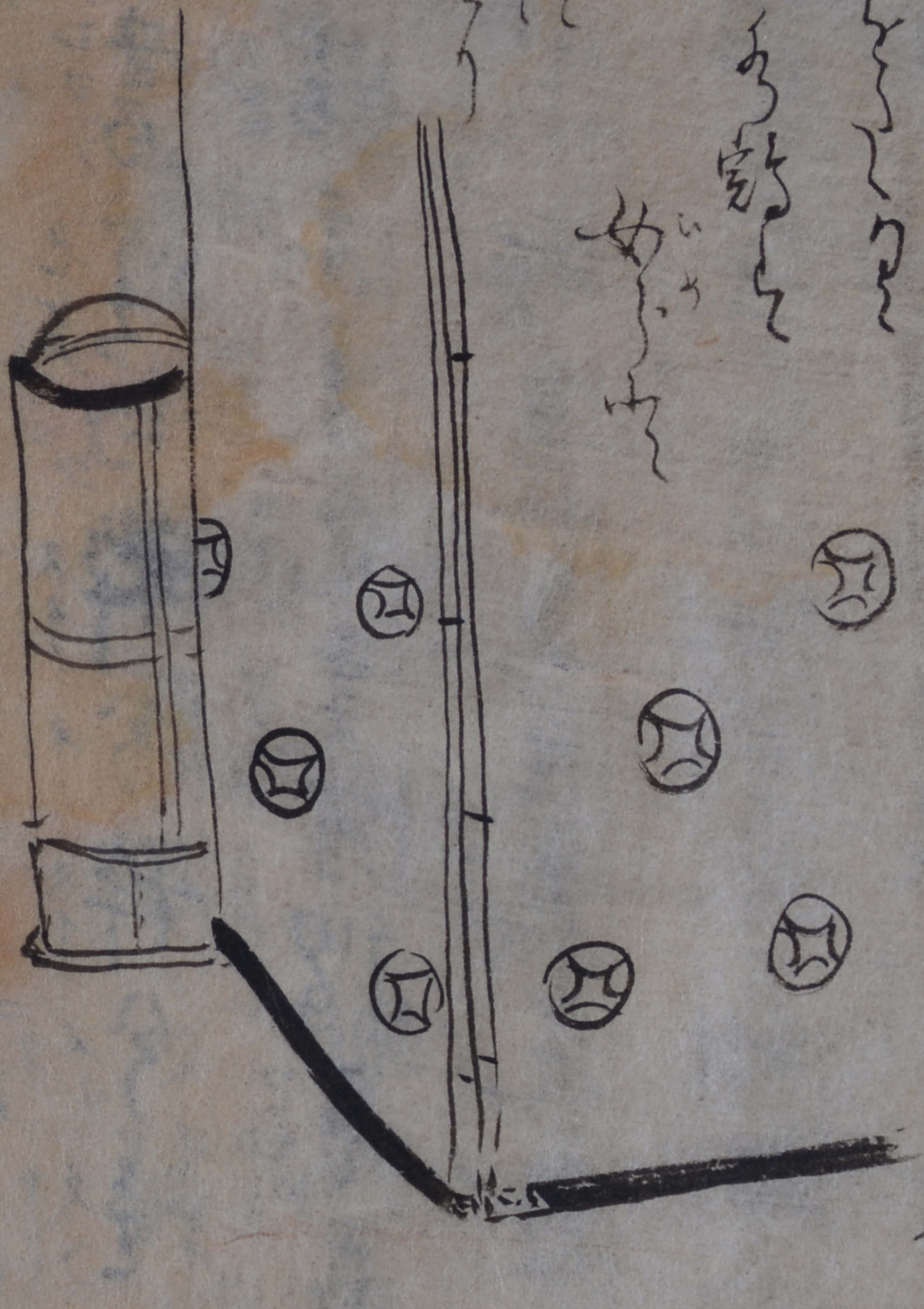
年（トシ）ヲ旬（コッ）セント欲（ホッ）シ舊（シイ）ヲ棄（スイ）テント欲（ホッ）シ新（シン）ヲ採（トラ）ント欲（ホッ）シ嗜（アジハ）ヒ（ヒ）ヲ捨（スイ）テント欲（ホッ）シ情（ジョウ）ヲ制（セイ）セント欲（ホッ）シ

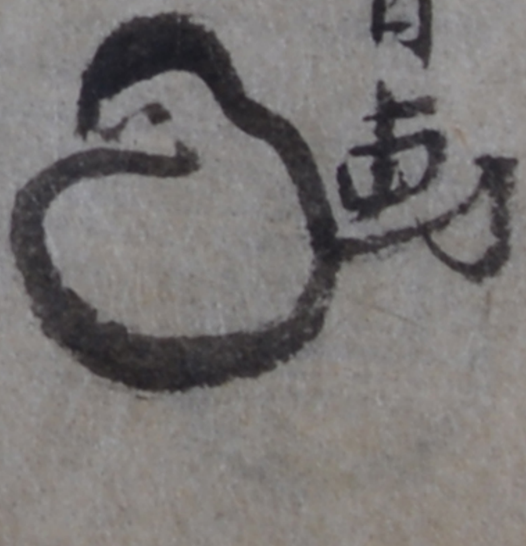
極（キワ）メ通（トオ）ス者（モノ）ハ其（ソノ）ノ生（セイ）ヲ長（チョウ）ニ尻（シリ）ヲ拄（ヨセ）ニ云（イウ）ヘリ

年（トシ）ヲ旬（コッ）セント欲（ホッ）シ舊（シイ）ヲ棄（スイ）テント欲（ホッ）シ新（シン）ヲ採（トラ）ント欲（ホッ）シ嗜（アジハ）ヒ（ヒ）ヲ捨（スイ）テント欲（ホッ）シ情（ジョウ）ヲ制（セイ）セント欲（ホッ）シ

極（キワ）メ通（トオ）ス者（モノ）ハ其（ソノ）ノ生（セイ）ヲ長（チョウ）ニ尻（シリ）ヲ拄（ヨセ）ニ云（イウ）ヘリ








高やうねや
朝顔もまた
チンしじやす
歌種山人



京浅支
文會堂友之敬白

尾悼口上

各様益御機嫌能とは尾ぬ尾ぬ極
もなみ陸る私店ハ日増繁昌
仕候段ハ仕合もなみ扨又此度
人もすめハいきねん此小冊ハ
中ハ不何卒ひいきを以て御一後ハ
よりけ大事ニ極もなみ尚又
貴なを賞なを不お多ハ法山ニ御用
ニ御ほとりて御偶ちく等ニ希上升先ハ
粋の暁始りサヨウニもなら御人ハ御ゆ道ニ

當(とう)面無粹(せいすい)は曙(あけぼの)

土洋古出房

彼行著

義理(ぎり)ふんどしはいつねんも

惜(なつかし)き

言(いと)もくもくもあの(せいろう)

鄙(やぼ)蒼(はなだ)なる嗜(たしなみ)の姫(こめ)

口(くち)砂糖屋の丁(ちょう)稚(あま)

尋(さがし)ぞ(ぞう)ぞ(ぞう)もしらぬ

尾(ひつ)

嵐(ねづみ)

稚(ひつ)

枝(えだ)ぬけぶらぶるうとしく西(さいふまの)

あますかやま

あまのかぐやま

もあるか

命（いのち）かゝ二番目（だんめ）の大和（たいせう）お金銀（きんぎん）をおしこと（いざ）

くせ（ゆくところ）紛（つごう）に成（ぐゝん）合と上而（ゆじ）で其庭をもて

めらる（おや）親（め）の四ツの目（ゆ）を忘のびて見へざれ（かよ）

おしらくもあつたもの一升（とせうゝい）賞の目をもて

志（しゝ）ぶ（たの）まの（ふ）ぶ（たの）に得（ゆ）酒の樂（たの）をせんぶ

如是の<ruby>聘<rt>ふく</rt></ruby>ぐらにて<ruby>家<rt>いへ</rt></ruby>ぬ<ruby>義<rt>ぎ</rt></ruby>をうちこんで
<ruby>贖<rt>こうけ</rt></ruby>所しく<ruby>女<rt>て</rt></ruby>付<ruby>にしたまふ<rt>まぶら</rt></ruby>が<ruby>三日<rt>ゆ</rt></ruby>も<ruby>たて</ruby>
らず<ruby>鼻<rt>たな</rt></ruby>の<ruby>着<rt>に</rt></ruby>ハ<ruby>世<rt>つく</rt></ruby>間<ruby>にいくつ<rt>セけん</rt></ruby>もある<ruby>事<rt>ぶ</rt></ruby>
なり<ruby>されば<rt>ぐ</rt></ruby>合<ruby>点<rt>てん</rt></ruby>してけ<ruby>れ<rt>みち</rt></ruby>逆<ruby>ふ<rt>まよ</rt></ruby>し<ruby>従<rt>やまざくら</rt></ruby>
とハよく<ruby>諭<rt>らん</rt></ruby>ぶ<ruby>鳴<rt>あく</rt></ruby>呼<ruby>そ<rt>ぐ</rt></ruby>ゝ<ruby>ゆ<rt>と</rt></ruby>ゝ<ruby>悔<rt>さうがほ</rt></ruby>

ひろ
よ廣きことはいふもの
いう
なれ
すて
稚がるさいとかく
けれのこまよひすて
いふこと
しましやこゝ
云るすが
なこぐぐち
ぢゝ
じざんすと
しゝ
ぞ
滅河が
しゝ
間呑童子と
しゝ
腹を
ぢようぶ
ねんぞう
しをもしぬすじ
しまも
しゝ
涅槃縁の
ゝ
なり
に
二王自ゑるよふに
形に
似あるぞ
ゝ
ちあれ

仮に厳をこぞりすゑ給はんとしたれば実に女色
ハ所骨茶迷心の毒まさるをつたり
夏の温石と女ふの心はちがちなもの
なれがゞれゆゞんゆゞんなるべかりゞゆゞゆゞるのよふ
なる紬ゆゞんなしとて家をこしおすもたを

さるをみんなこつちれ心うつし粹（すい）我
（てう）身しく大門（おほかん）もしまゐるあるに（さき）穴蔵（あなぐら）の
（でう）鍵（しあ）をんが粹あるべし
○無常（むぜう）ぞ（いりあい）ぐ（まよ）ひ迷ふて（こて）路を
（うてうてん）（うんさう）（やみ）（よ）（あとさき）
有須臾一寸先ハ闇の夜に迷ふ

和歌の浦にて

なのりそも　むべ
さかまもる　なみ
ぢ　かな
白妙の　袖　田町　馬川
ぬれて　浜の名
なほ　みち
後のしるしや　千鳥

うつくしき馬の
かい
合ひしをぬすみ
とられし
ころ

今日は八三郎と同
ぢ位
年ごろ
ぬすみ
ともし
ぬすみ
ともし
ぬすみ
ともし

回 附にコウ阿治郎殿さまふかやなひ 四 成行

そりやよかろふ 所にいらう トそつい所にの チヨツトかげんをうかゞ

いの脈 みやく でもいけふ イヤせんせん 生れ内 うち こうなトハ入

阿治郎 年ハ廿二三未女房なりにて 獨住 やまめぐら 暮しのきさんじに子孫

きさん きイやかましい浮世をさびしく 暮さんと 机にかり 行り 菓じて

いかるらしく 四 コレ 阿君 あくん とんとふむ 四 アてぐことじや 咲

うらむき八えかびつくりさすいく 四 びつくりもす

さこまじい 人ひめのおもはせな 同 そんなよふ

きなるすでいなし 同 机のうへをよみなんぞや 最句

まいるナンじゃ法ねより 是ハ思らいナヨト中をトひらき

かる 同 さきを 思ひ出るなれ きさを 御たちの

あかしやはねそなんじやおりしうしもすんと
囲志ゝしたおせるじやナ囲アハーおれが尺ナ
いふのに囲イヤ大きこゝ丸をもこしたぜあ
つかましい嘴しじやなよ我の世話をやかす
かく囲ありやうしがつとていふ人でちつと

内がもやくやでまいけるとが大めいこく

四どこでもみやつじやて樹は見かう南

行いぞふじやナ 阿コヲツそんなら お供せふ

志りしすめじやさぶいが一寸いきまやふの国

焼いぞふじやあろ 四回そりやよかろふ 阿コリヤ

しらくもにあそぶつるのよそほひも
（連）
（様）
（連）
（連）
（連

阿
くちぶえや吹けども吹けども
風がなくて
凧があがらない
阿
風がなくて凧があがらない
阿
ふうせんや吹けども吹けども
とべない
阿
ふうせんや吹けども吹けども
とべない
阿
ふうせんや吹けども吹けども
とべ

ふり
名を飯
なんそ
あるそ
ふゆ
ういやうに
焼のうち
ぜんぜん
ちらも
ちがい
ようす
回
物を
ちがい
回
時は
で
ある
回
ちがい
ようす
ちがい
ようす
ちがい
ようす

問 りふい八三の常場を春見せふう 図そん
ならおこおそて 阿 サアおでましコりや長右
こて春しておけそして人がいつまら用
ド
すすめきひてあすこいとく望人が来ふ
あきよ
明よよいぞよ 図 そして今の春和いみな

しゆくぼう はいけん
さき
なお
よふ
めすびと
き
名 あり

いかてもまく圖何ぬすびとく　ト皆し門れし
もろ圖立すどろ

見りを気（け）をつもよト門ふ湯ひ
見れども

けしきはいくれどもひるんずよ

世界を協同（せかいきちあと）（にういくるざ）

二階の車庭

□花車（おみの）ホンニ巴調ニあなるゝハてしらつけるそで
ゆゑぐら舟なゝいろさいはれはいどの道こゝおもひ
でおぎりみりく 圖（巴） はれいはれ（阿弥陀如来の事ト云） ろせつしあこぐなよ
付おりて 引圖 雪ゐ所なり舟ゥ
回 せんそそんなりの 圖（みの） いん 礼思とあらちわて

ちよこ
よおく
まごまご
ろいろ
ふたり
ふたり
ふたり

ゆくへたづねてなりとも
こまぶるうなりとも
四相ごとも
トかう雪の
とまるまで
ちよ
ちよと
四相ごとも
えんま
四色ありおいて
ちよ
ちよと
ちよ
ちよと
ちよ
ちよと

でゐたくさんの茶りがんからよいかをとんでくるとうてふのやうにつゐてゐる池の面をのぞいて見ると赤い鯉が五六ひきおよいでゐる

ツンシヤント引しあなたちとおあかり圓ハイおいさ
[illegible]すしあなたちとおあかり圓ハイおいさ
き[illegible]あなたいなあちとこちらへおより
なきしん〻圓ハイ[illegible]ぞんくい
人ありじやな[illegible]今[illegible]やつしぞやラ圓
アノ[illegible]ぐぢ
[illegible]んあなたのよこて[illegible]なる[illegible]くめ

に
仰そ いなきなす 圓 ホンニ そしもそ
いる日 もし いぢかりながら 圓 ハイおい
しぢき トいとゞく 圓 附にこふおみのこたいと
いとり
そんぢ やつて 圓 ハイどむハ いたきな
せふ 圓 あいつもよかろふ 圓 マアやつて

みまゝ　ト仲恭ニ云　梶　巴洞さん一ッけん

いまさ　チセ　ゆふ　巴　マヲ　おりしらい　サアてい　梶　ひい

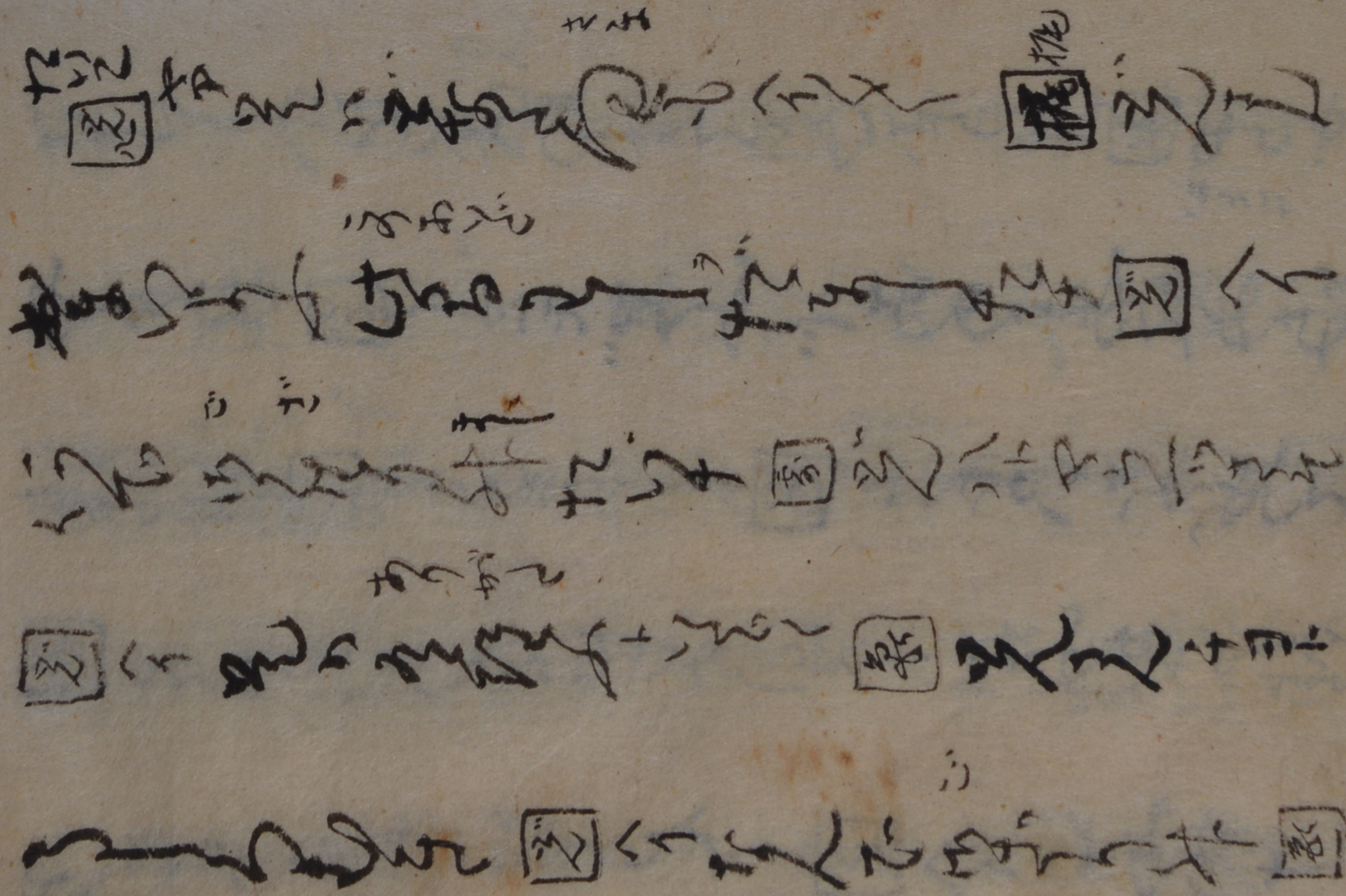
ふこ　ご　ご　巴　梶

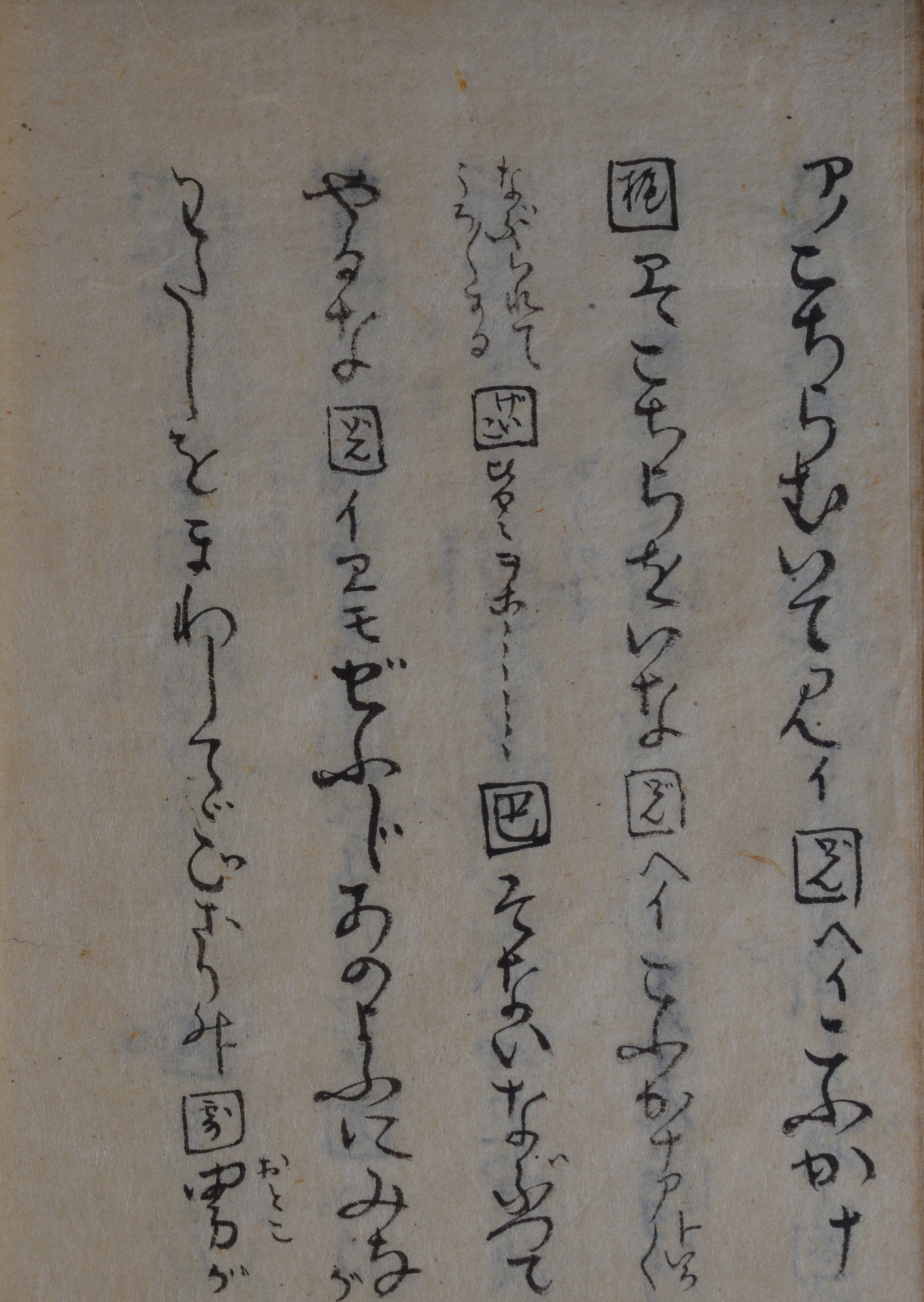
ニこ　あで　さん　〃ハイ　巴　リウデ　梶　チヱトおつ

ゝ　サア　一ツ　おあかり　巴　マヲ　かゝらまけじや

トサハギの　田　れいこぞん　ハまぶ　おてからるのなきを　古歌　ん

ちとなり　ゝ　とその　田　まゝ　ひいまゝそよび　やうさ　ん　とる





ゐとつらいねんやな
ヲ外 図 ホンマニ 急
ちゃうかとおもたら
あのたなげ 鼻毛こんでもり
ん この 図 みなく ヨホーこ
カンウトかのるく
ハテくヤシくく 図

ヲイヤモトよ
図 ホンマニ
図 ヨホーこ
図 ヨホーこ
図 ヨホーこ

ろいしおとも おどろ（トかさぬいぞ ゞえハト一不こお
ど白忍らさわぎとなり 寓
ゐるおどろひよしに 亀洗の（かがつきなりい）（たち）紙をひくりゝすト 庵数の叔ど
らけとなる みなくちとおどろきたそうぞうする 仲来そ
こら行みるゝ家こんれそこらあるゝ 皆こけてゐる
たいこ持げいこみなくてろとみそいる よふ（しづ）くおさまると
[梅] 巴洞ゝんおとなさらんらけ [急] アナイ 叔
こぼしておいて家あるまんけ [どん] 巴洞

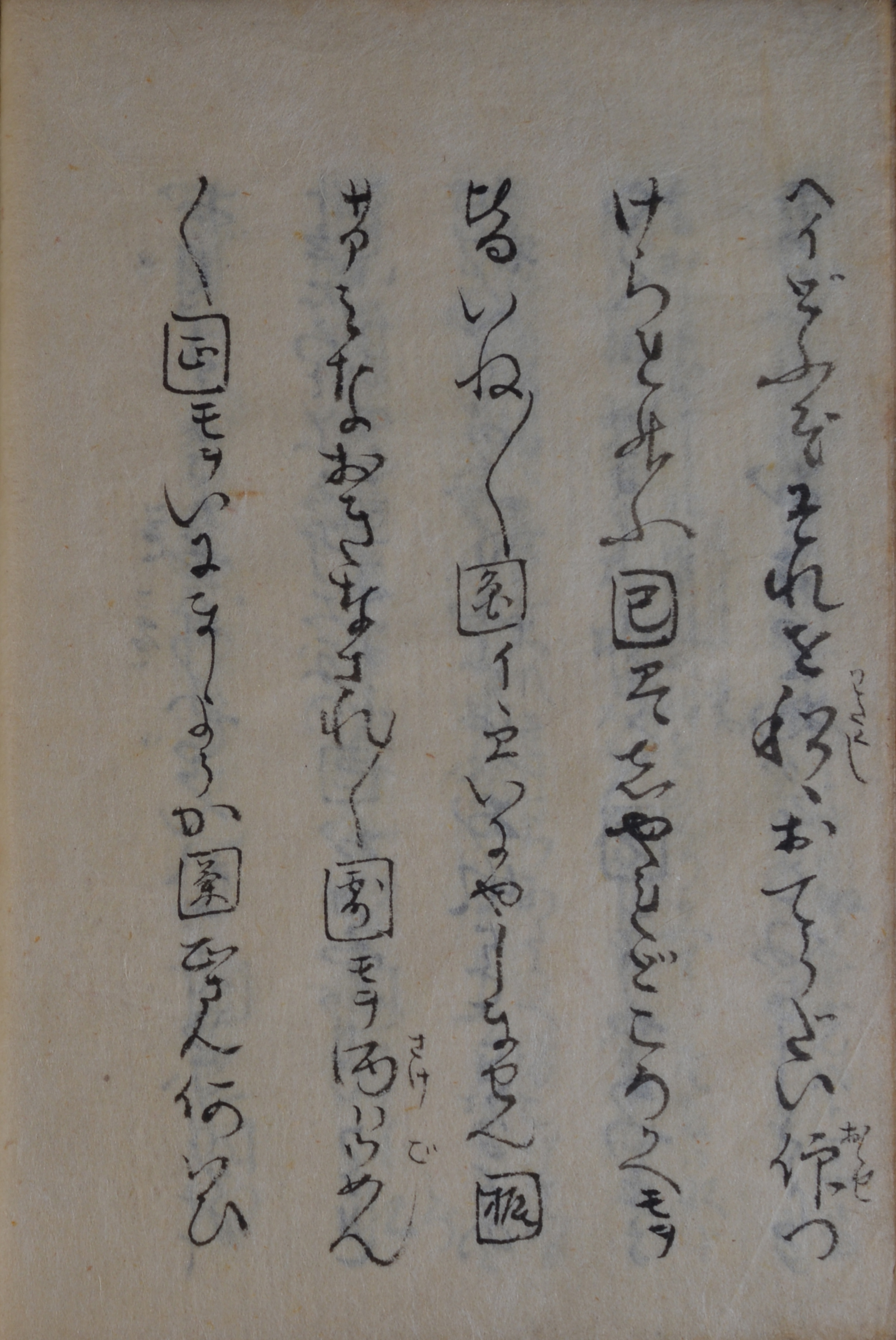
お目(め)さまさ亀(ま)升(ま)ふぞん八めでゆきり升

ト年たろといふきけたなの
こといろでやる巴めやいてこそ巴おきやがしてこと

がかんくのふかふしゆへおれをときるかの

やくさいこしこしくぞ巴そりやめつきら

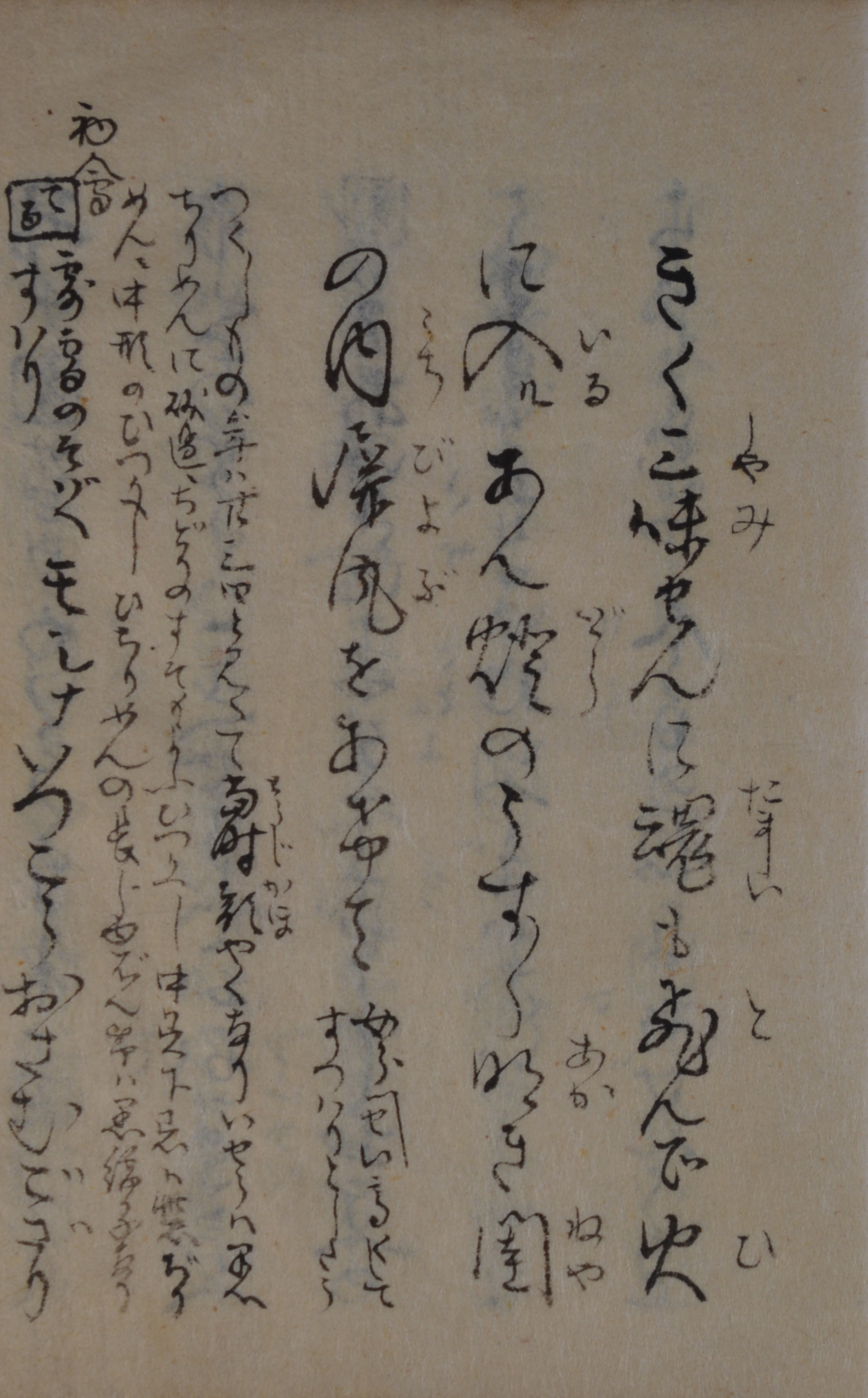
なきりしおきるあ(かの)かそとねとしらら



なるぞひあ トやかましいうてる
ぞひあ 下にも車ある
みの 卫うイそうぞ
ことじゃあつたナラホこと
家 おこのまんめふ
げいこんいちしらし
ゝ 下の デゆずり井之
ソンナうぞなくもおしまい
げいこ 皆ハイ 卜こ
うぞ
げいこ 皆まちまちぞちくもおもしろ

月の種の音ゴヲンおそいそろ礼ち
東夜に行所同じ散賊の今
氣の清いゝ姫にて酒の手だんも
簾屋の門もるから亜よ屋ぬ事
さくなせんかいさしの様な女郎の

年(てく)曽(だ)にもちらまとて心(こら)も
ちぢに
ぬらしけれ
灯(ちん)燃(ぎ)さげ
伴(なかいしゆ)昔(ぶ)
ぬらしけれ
宮(さやく)をいな
おとしの
しきりの
昔(おと)
ものコツホ
りの
昔(おと)
ものの
小(こ)女(めろ)
の喝(にかい)
に三階まで



団サヨウカワリ
ソレデアナタニミセルノデスガゼヒトモ
アナタノオ家ノ
ケンゾクヲヨビアツメテオクレナサイ
ソレデアナタニミセルノデスガゼヒトモ
アナタノオ家ノ
ケンゾクヲヨビアツメテオクレナサイ
団ヲオミセ

しのぞんじゐりしじやテ[illegible]ホしやいだし
て[illegible]なぶりなされ[illegible]イやなぶるじやな
いらしたにおまへならきふ[illegible]しじやがこうち
ぜかりとくしんをしてもいづれ[illegible]にい
あるやつにて[illegible]なんぞかおなかなのし

みがゝ十忘り目めにしてへ
ゑらりながら
おくらやまし
いるまこらほ
どりんきぶかいやつそこへたの
すいがうまそ如にたゝまる
圖ヲおしよふおつしやる
なるとしやそんなるまりとんかゝ
こと
ぬ圖忘らあまきかつよひ
ぞ
ゼなか
ゑ
ゑ
脊中の皮を
いゝ
ごぜんせい
見ゝ
ひ
殺まるもせしこと
いくらいなの

がとてもこちらハ綿
ぬづみ
のの風はしじとしが
さしとる言しやテ□あのおかしやるる
ほう
見わすべきこしらのようなものな
んぼなりにあり
すい
ひすてしえあなた
のようなもなれハ
稱ハハ
こう
ちあるもぬ□サテ

丁丑ハ
ゆ(ぐく)あやがあらはれさ国ヲホシ
あこがくやでおりひどしたかなの
まゆけいつこしよふしあ升ナ国
ゆくに
サアヌ(えや)ぜ(ぎ)ハ(ぬ)ぬ(ぎ)ふ(ぬ)しや国あの
こうしら
春ゆ(ぐ)ナモシアノ年(ぎ)春の役ナいつこ

よふでき年ナ[illegible]あいふるいよふ例あり

志かしなんでき事僕やしやなけりや

ただ

婚まらぬ

はゝ雪ちゝかじやびいきなり

女下又大の罵じゆやひきなり

[illegible]

だまたんどハ市の例がいちまうしかか

なれ

つまの[illegible]何をふぞく角がいつもち

りくつがよい甚敵とよふやつハ思らいや
しくりん
きしきん
はじや絵令さらずにたとらきよる
りくりん
雪道が如なしものか 圖 ナンノマアくそ
ゆくゝらせつ
ぞうかりいなるトトかくてゝなづこ行雪道
いつさい女に急んのうすきく
おくやまやく
すそいでも如ぶまいふらしと風雪山縁なりけふ
すでハ如ふの上をしだいまでずいぶんもやられる
宮内右のり

〇おさなき

ちくほのこの世界
ものいっているかのようにうつくしい
ちゃわんのそこにあげそめるのふのあいだ
ちょっとのそばをすいとる
すいとるそばからすいとられて
ゆくえもなくなるそのひろ
ちゃわんのそこに中名ゝ名ゝ名ゝ
ふくろうのかたちのようにうつくしい
ちゃわんのそこに
ふくろうのかたちのようにうつくしい
ちゃわんのそこに
ふくろうのかたちのようにうつくしい
ちゃわんのそこに

のぬるしや 図 ヲイヤなんの毛海にぞ
まさんがみるのでこそぞつかりほんな
いふてかしたまれ 図 わんなほい 塀に 図
ありにぞこらでエ 図 これいみけしから
ぬ ぢ ゆていねれ 図 そしてでもきうしまれ

イナ

圓 ほりへ なのかだしすじ ことなべ

塚江ハ中橋前の後邊じや 圓

コヲツト

志あんして是何いなさるぞいけ なに

かふ

そやしこまもん 圓ハワー 圓りく

あなたもふ

これぎり

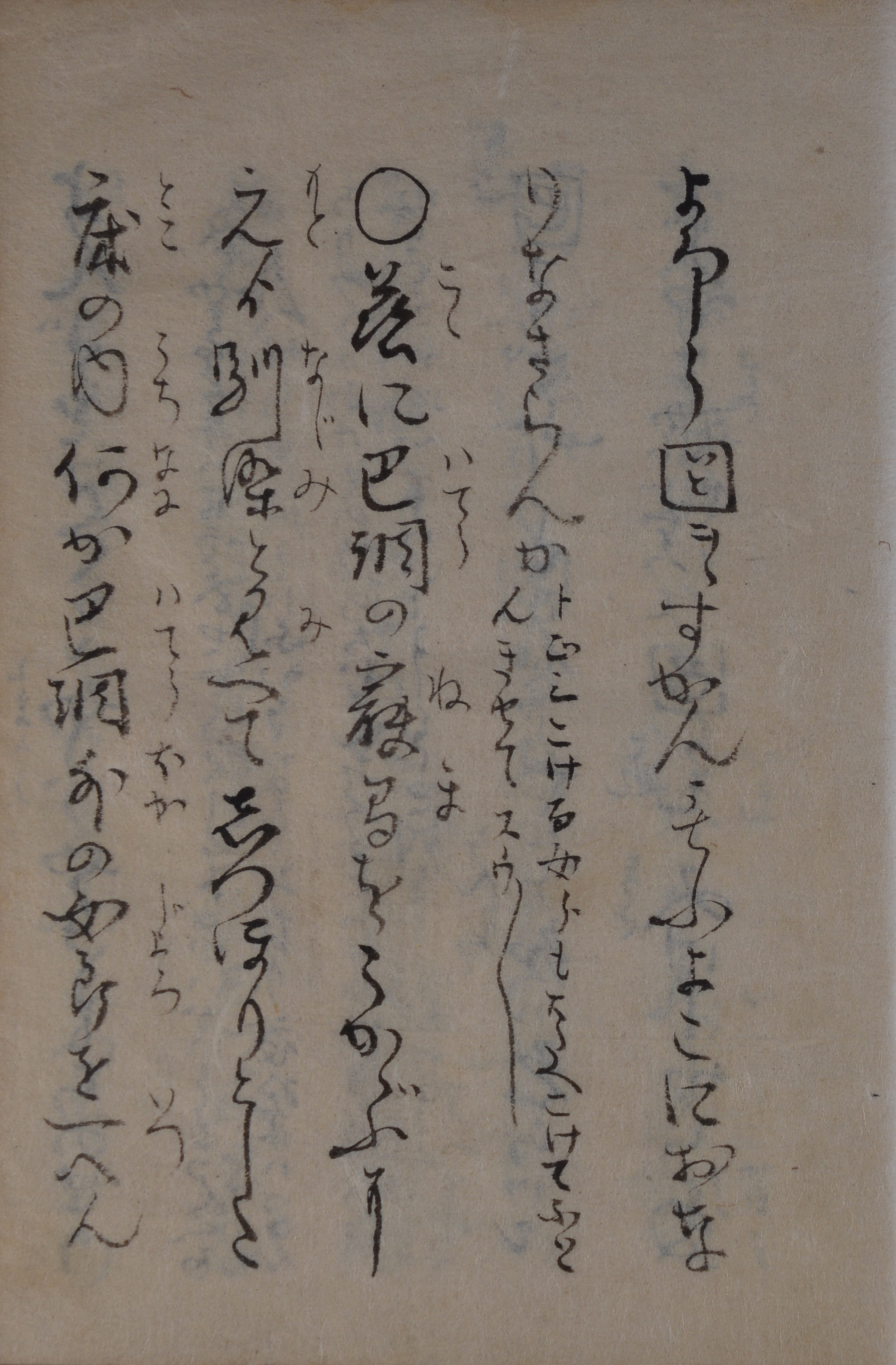
そしもぞよんどおくれなさ

らんじやあらふ

圓 わつそしなおこ

ゆなら

どんでもたまず
囲ゝそんなつかりまゝ
いつおいでなさるゝ
囲いつでもゆるゝて
囲そんなならあすりゝ囲なんぞ時ごでもゝ
囲ヲくイヤそないぬめくらいなさんナイナ
ほんまなこちつて居ますぞく囲そこと



よんぶ也 ゑくて 如ぶ やきもちのせり

（じょうう）

女 女郎年ハ丹田女せいらくしてむかいかハともゑ也

ぬ人から巴洞とにふかきなじみあり夜聖ハ風

ちりやんるあげその蝶のちいもんおづるをつくしてまつしく

ねきこれ光ん弟はいとまし巴洞をしりむけすして

（すいつて光ク）

（こん や）

（駒染）

巴 コヲぞふしたりんじや 今夜ハ忍らいン

（これ まる）

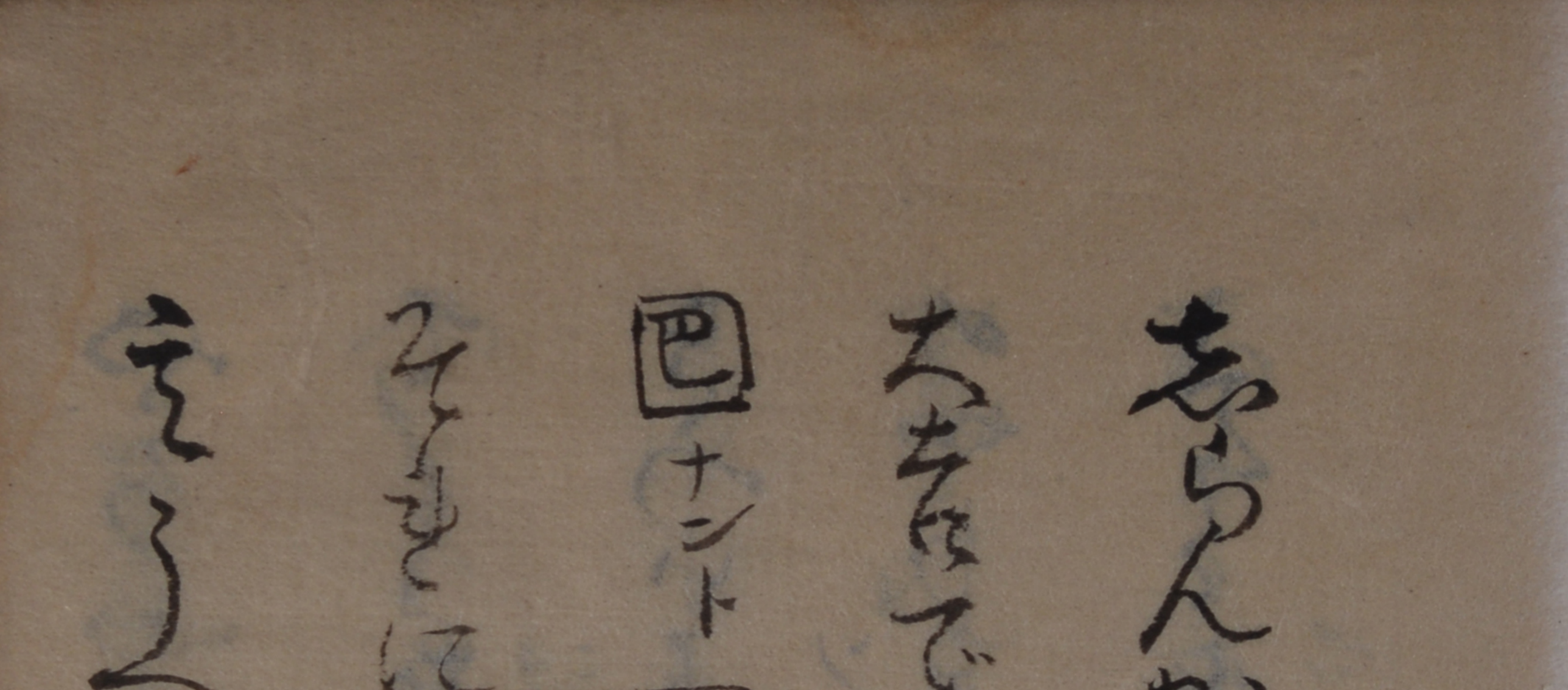
ぶやナ 如ぶをまつて 巴 見ハ又けしからぬ

（聖る）

なんでそのよふくこゝ
ゆえりだうつて
ぶりちつとむとて
ハア恐れ
よふなものにならぬ
とおりふて
いこうちがほとそ
そしてそふそうちから

かほ
い
かほ
ト

すりゃ たとへこがれ死にするとも
こんてよびやせぬなんの事ぞ
が女ぢゃあるまいし 【らん】ハアそうじゃ
にようてこうちうちよけて何げるひけ
【巴】そふとい何が【巴】何がもおかしいひけ



やろふなんぞとうとしやくやしい
てしならぬ口ハナ圓ワハしし見わえ
きついるなんのまならそうとたじ
めかうをがよいになんまいらず
よそ来てだれがきつさう圓サアよ

ご　　ます

あ　ら　ぶ　り　せ　ば　い　ぜ　し　て　あ　ち　ら　へ　行　き

な　る　れ　し　し　や　り　ふ　う　そ　巴　コ　し　く

ひ　け　も　き　か　ず　と　そ　ふ　お　こ　つ　く　ま　の　ぶ

や　な　い　そ　ま　ぶ　ず　い　ぶ　ん　か　く　す　の　ぶ　や　ナ　イ

そ　な　ま　ぶ　ふ　と　あ　り　ふ　て　い　る　の　ぶ　や　ひ　あ　い　ぶ

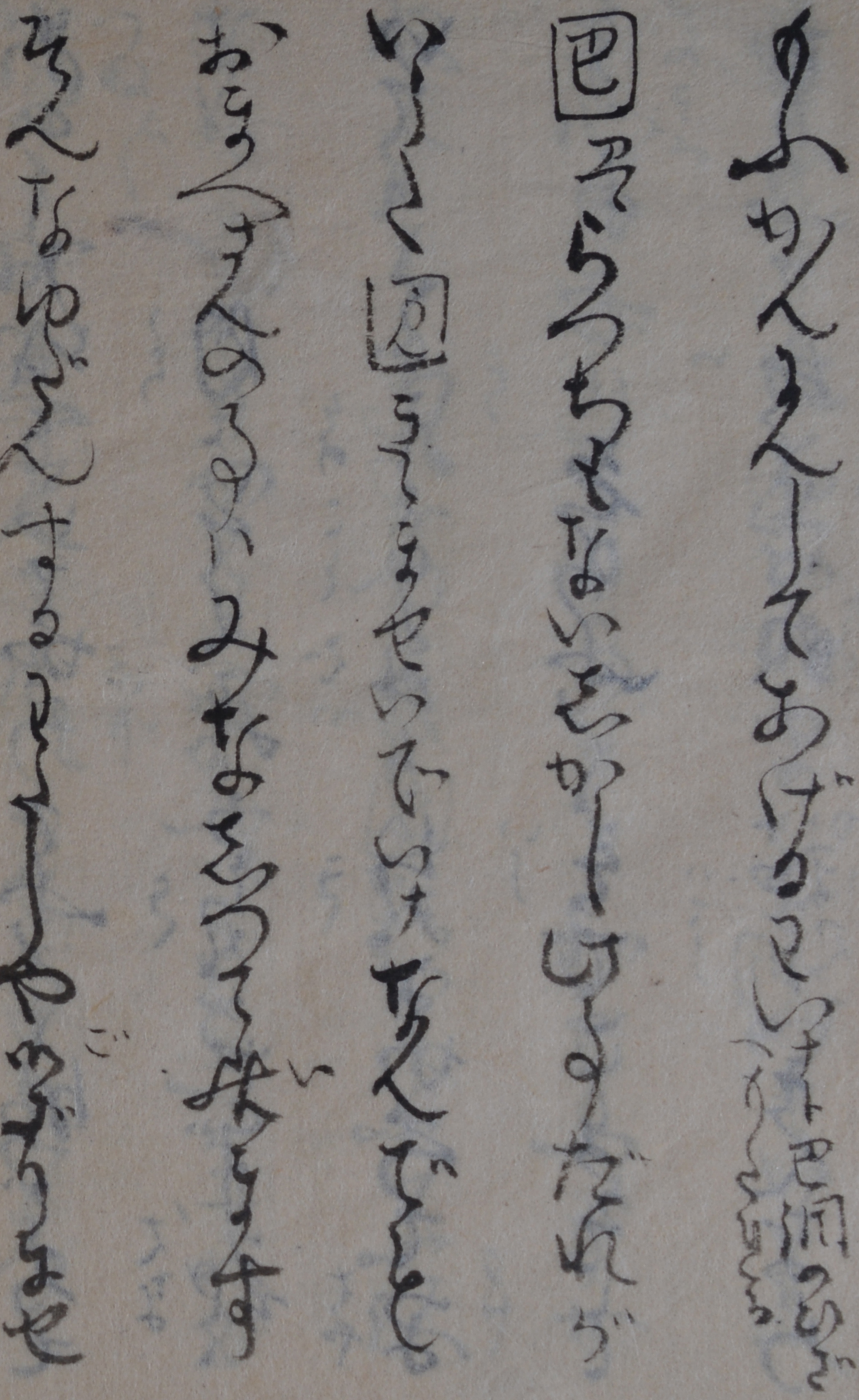
あ井をよんざのかおれがな道とよん
どころない付合でたゞいふ酒の
あしが如く買ぞふもとし斗りいやとも
いとれずこゝ図いくゝ恵口なるゝ
そなさんなよそ（アノ）ゆらはとしやよべ

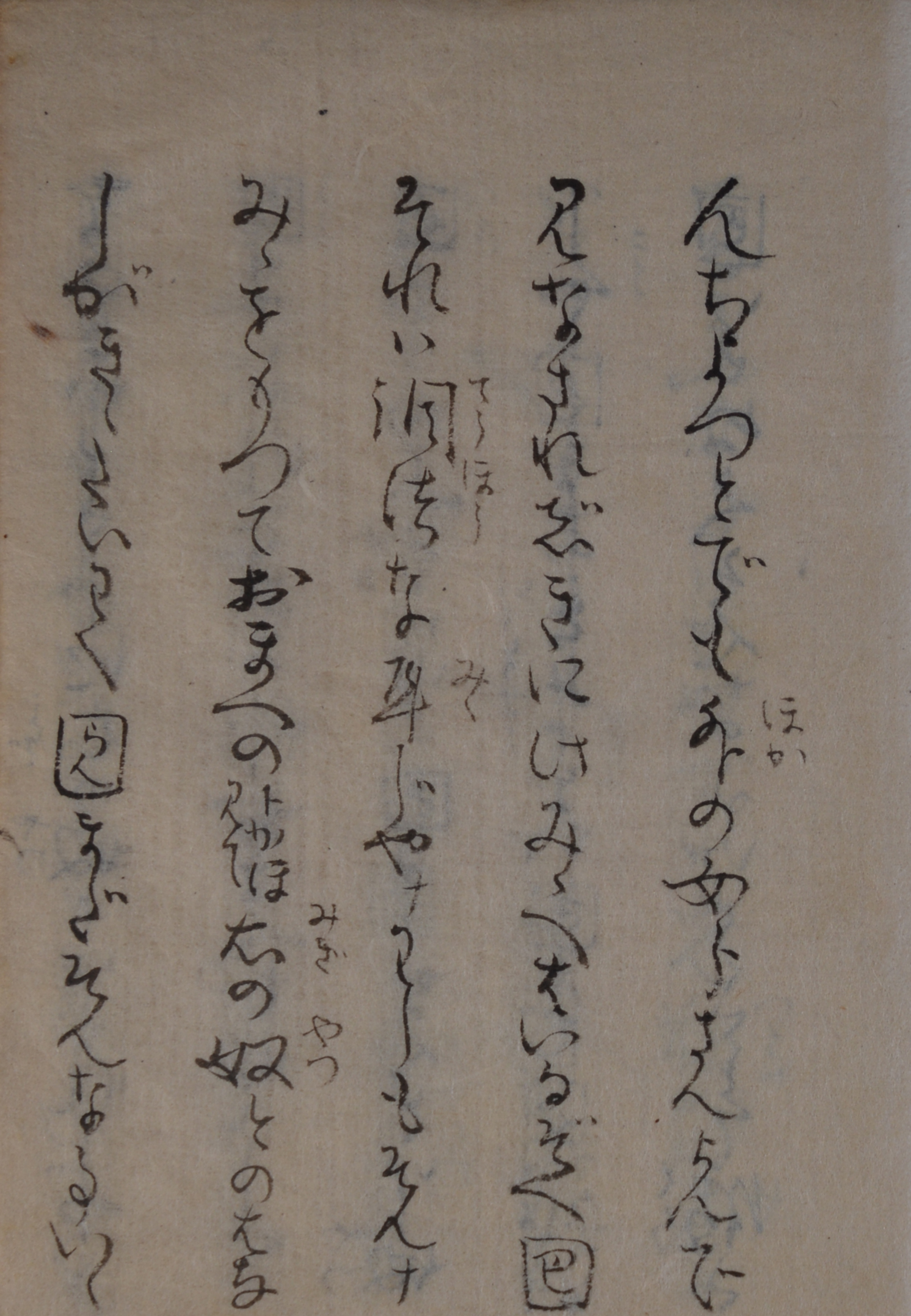
ゑんかいけんそんなふうに
ゑんない心ぞいしていの
ひとりがおもふことを
ひとりがおもふことを
ひとりがおもふことを

ゆき　そのあぶ
新えるにことかはらすて　かみがきて
はるのことはりまにたちで　それぞいきちを
よんざらしつてるをこの　おやじ　なのけ
ねい
俳しやはるのをいつてつけにようぶよし
でるいからいやでならねどせよ

るなりに夜の明るのとこまつていと
そのたち
え心も忘りくさらずしもやふさか
ねにしも夕がつよい[ら人]こちらむいてそふいふ
なら夏あめつちのよふこさこゝるけれど
つねぐ
常ゝおまえ人ゝ雨くせがきるいよ

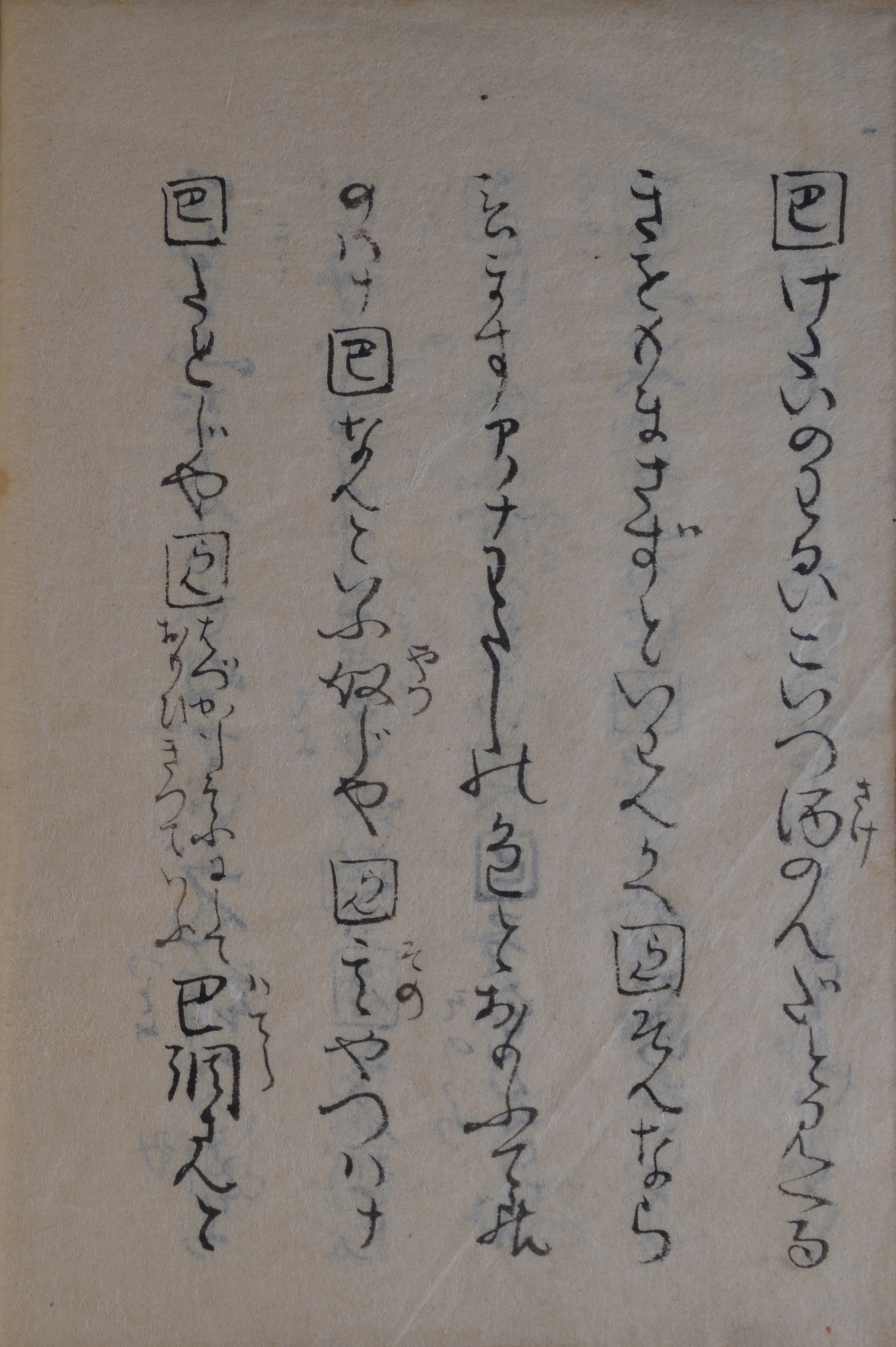
あのまゝ我をいてからのふく暇がうて
しとし内にいてもなるゝ兄がせぐ事と
いてもたゞこゝろのみ身ゝ兄はかつてまゝ
うあふてゝ君ゝふくそてこゝろそと
おもふてはなれどもいてゝ上巴洞のそんなら





なるかみにたゞ
回サアこれであろう
ものやうに
回コリヤおもしろい
おる
ぞ
回ヲヲなるとなる
いる
回まあきいてゐ
ろ
回ヲヲなるとなる
回ヲヲなるとなる
回ヲヲなるとなる

てるよふなるまいせぬずいぶん勅めの身なこと
いろまでもなし　サアアのふいく　[ら]　そんなら
色にしてもだんないく　[巳]　アそそのいろ
ゑふのにいふのに　[ら]　ヨホーそなのおこり
なりけりやうこしこしいこと



おもふ　名ぶ　名ぶ　名ぶ

板

雨の花火るもなれ
光らしいほうなれ
しこの宮稗り鶯の
續くとえ帰るなら

作者もとより人の心
にしたがひ然ぞ
ゑらん稗ゝなり
ゑらんはてはなら
ぬ事なれども
世にあるが稗ぞあら
ぬかぞ和人
の

番言

浪花

土洋古書屋佐行作

當世稗暢

終

